

## 第3章

# 木育活動の課題

### 第1節 | 児童期の生活体験の不足

#### 1.1 はじめに

「木育」は、北海道で生まれ、その後、林野庁の「木材産業の体制整備及び国産材の利用拡大に向けた基本方針」の中で使われている。これらの活動が推進される原因として、国産材の需要低迷がある。安価な外材の輸入に加え、素材としての木材自体の需要低迷も影響している。プラスチックや金属製品等の代替物の出現により、ヒトが代替物に移行していった原因については、その機能性や経済性などが考えられる。

本節は、消費者が製品や住宅を購入するときに、どのようなヒトが木製品や木造住宅を選んでいるのか、また、選ぼうとしているのかについて明らかにすることを目的としている。具体的には、児童期の生活体験および環境（特に、森林と生活）に対する意識を調査し、各年齢層、生活圏による意識の違いについて比較分析を行う。今後、木育を行っていくうえで森林や木材に対する知識を得ることももちろん重要なことである。しかし、このような知識の真の定着は児童期の生活体験と密接に関係するという指摘がある〔片岡 1990〕。したがって、木育の展開を議論するうえで子どもおよび大人の児童期の生活体験の実態と森林、木材に対する認識の関係を明らかにすることは重要と言える。

対象は、全国で最も木育に関連したイベントや講座が開催されている熊本県内の子どもおよび大人とした。熊本県は中心部に都市があり、そう遠くないところに森林があることから、広い流域としてのイメージがしやすく、木育の意義と役割が明確に指摘しやすい地域であることから、木育の調査地としては適すると判断した。

## 1.2 調査および調査方法

### 1.2.1 調査対象・方法

児童期の生活体験および環境に対する意識を調査するために、各地で開催されたものづくり教室に参加した児童・生徒および保護者を調査対象とした。地域ごとに分類すると、県北（山鹿市・和水町）42人、熊本市110人、県南（八代市・水俣市）80人、合計232人である。年齢ごとの内訳は、6～15歳：94人、16～25歳：25人、26～35歳：36人、36～45歳：68人、46歳以上：9人であった。性別では、男性：78人、女性：154人であった。

2009年6月から7月にかけて調査対象者に、年齢、性別、児童期の生活環境および生活体験、現在の日常生活における時間の使い方、森林と生活との関係、木材の利用に関する意識などについてアンケートによる調査を行った。なお、「児童期の生活体験」の項目は、中学生以上の対象者については、小学校までの生活体験を調査の対象とした<sup>1</sup>。

### 1.2.2 調査内容

表3.1の質問項目は、生活体験を調査するため片岡〔片岡1990〕、深谷ら〔深谷1982〕の調査を参考にして、人間関係、自然体験、野外活動、技術体験から見た生活体験の度合いを調査したものである。なお、評点については、「よくある」、「ときどきある」、「何度かある」、「一度もない」をおおの4、3、2、1点として、項目ごとに加算してそれぞれの集団の平均値を算出した。また、調査結果は、年齢、性別、生活環境（小学生までの居住地

---

1 調査用紙の中で、小学校時代の生活体験を想起し記述するよう指示している。

表 3.1 生活体験に関する質問事項の分類

項 目	質 問 事 項
人間関係	1. 一人で一晩以上、留守番をしたことがありますか 2. 家族の誰かを看病したことがありますか 3. 近所の子どもと遊んだことがありますか 4. 赤ちゃんをおんぶしたことがありますか 5. 家族の服を洗濯したことがありますか 6. 家族のために食事をつくったことがありますか
自然体験	7. フモの巣づくりをみたことがありますか 8. カエルに触ったことがありますか 9. 犬や小鳥の死に出会ったことがありますか 10. 牛や馬を近くでみたことがありますか 11. 野生の動物（タヌキやリスなど）をみたことがありますか
野外活動	12. わき水や井戸の水を飲んだことがありますか 13. 川や海で魚つりをしたことがありますか 14. 山登りやハイキングをしたことがありますか 15. カキ、クリを自分でとって食べたことがありますか 16. 木の苗を植えたことがありますか
技術体験	17. 小刀やナイフを研いだことがありますか 18. アイロンをかけたことがありますか 19. 小刀やナイフで鉛筆を削ったことがありますか 20. りんごの皮をむいたことがありますか 21. マキを使って火をたき料理をしたことがありますか 22. 製材所や木工所で木を加工しているところをみたことがありますか

注) あなたのこれまでの体験について、次の項目についてその度合いを番号で回答してください。  
(中学生以上の方は、小学校までの経験でお答えください。)

4:よくある 3:ときどきある 2:何度かある 1:一度もない

域)の3観点により分類し集計を行った。

## 1.3 結果および考察

### 1.3.1 生活体験調査

#### ① 年齢・性別

調査結果を年齢層ごとに分類したものが表3.2である。26歳以上については、項目により若干の差異はあるが、年齢が高まるにつれ生活体験の度合